

プロムナード・コンサート報告

—— 来場者の姿と声 ——

岸 啓 子

プロムナード・コンサートは愛媛大学地域創成研究センター設置記念事業の一環として2004年9月21日から11月17日にかけて5回シリーズで開催された。本稿はその入場者を対象に行ったアンケート調査の報告である。

プロムナード・コンサートのコンセプトは、大学と愛媛地域との文化的・事業的協働であり、具体的には以下の3点である。

- 1 愛媛大学と学外メディアである愛媛新聞社との共催事業である。
- 2 学内および地域の人々を対象としている。
- 3 愛媛地域の音楽家と大学音楽教員が出演する。

その内容は、①教育色を帯びない程度にレクチャーを織り交ぜたレクチャー・コンサートであり、②現在の愛媛地域における多彩な音楽状況を反映させ、クラシックだけに偏らないジャンル横断的構成としてジャズや能も組み入れ、学内企画としての特色を持たせた。

学会や公開講座等学内にも有料制は見受けられることをふまえ、学内であっても音楽会等の文化・教養的催しにはそれなりの対価を求める試みもありうるとの考えから有料コンサートとし、5回通し券4000円という割安感のある価格設定とした。とはいえ計画段階で大学が有料の催しを行うことについて議論もあり、その点に配慮し、主催者双方からなる実行委員会を立ち上げ、委員会が入場券の販売・会計管理にあたった。センターからの補助金30万円は楽器運搬・調律費・PA関係経費に充当し、出演料（学内関係者はボランティア）・印刷費・運営経費はチケット収入でまかなった（会計報告・監査はセンター会議で了承済み）。

会場は第1・第2回が共通教育大講義室、第3～第5回がメディアセンター・ホールとした。スタート時点では共通教育大講義室を5回通して会場としていたが、アンケート回答にも集中的に記

入された外部騒音のため、会場の途中変更を行った。

入場者数は各回ごとに概数で102名、108名、51名、56名、72名、合計389名、アンケート回答者は357名、回収率は約92%であった。

アンケート結果

1. 回答者数

第1回 98名、第2回 98名、第3回 45名、第4回 50名、第5回 66名、合計357名（男性133名 女性222名 無回答2名）

2. 年代

①十歳未満2名、②10歳代20名、③20歳代70名、④30歳代28名、⑤40歳代57名、⑥50歳代83名、⑦60歳代75名、⑧70歳代19名、⑨80歳代0名、⑩無回答3名

3. 来場方法

①徒歩37名、②自転車・バイク105名、③タクシー9名、④バス14名、⑤市内電車38名、⑥郊外電車18名、⑦自家用車155名、⑧JR5名、⑨その他4名、⑩無回答1名

自家用車の場合の駐車場 ①学内に駐車117名、②学外に駐車14名、③無回答19名

4. 愛媛大学との関係

①愛媛大学学生45名、②愛媛大学以外の学生4名、③小・中・高生11名、④社会人・愛媛大学教職員53名、⑤社会人・もと愛大教職員14名、⑥社会人・学外155名、⑦その他69名、⑧無回答6名

5. コンサート情報

①新聞97名、②ミニコミ紙4名、③ちらし37名、④知人から118名、⑤出演者から88名、⑥HPから（愛媛大学・地域創成研究センター）20名、⑦その他28名、⑧無回答5名

6. コンサートについての感想

企画 ①よい276名、②大体よい52名、③どちらかといえばよくない1名、④悪い1名、

⑤無回答27名

内容・出演者 ①よい289名, ②大体よい39名,
③どちらかといえばよくない1名, ④悪い0名, ⑤無回答28名

スタッフ対応 ①よい234名, ②大体よい86名,
③どちらかといえばよくない7名, ④悪い1名, ⑤無回答29名

会場 ①よい134名, ②大体よい130名, ③どちらかといえばよくない50名, ④悪い14名,
⑤無回答29名

会場について③どちらかと言えばよくない, および④悪いの各回別回答者数および比率

第1回 19名 19%	第2回 36名 37%
第3回 1名 2%	第4回 1名 2%
第5回 7名 11%	

7. 愛媛大学内でコンサートや芸能関係の公演をおこなうことについて

①賛成310名, ②どちらかといえば賛成21名,
③どちらかといえば不賛成5名, ④反対0名,
⑤無回答21名

8. 初来場者

第1回コンサート100%, 第2回コンサート51名52%, 第3回13名29%, 第4回35名70%, 第5回48名73%

9. 第3回コンサートが台風のために延期となったことについて(第3回実施日に質問)

① 当日4時ごろまでに延期を知っていた。	32名 71%
② しらなかった。	11名 24%
③ 無回答	2名 4%

以上の集計結果から特徴的な部分を拾うと, まずアンケート回答者の62%が女性で, 愛媛地域の各種文化行事や一般的な音楽会の結果と同じく女性の参加率が高かった。年代的には50歳代が最多で23%, 続いて60歳代21%, 20歳代20%であった。

来場手段では自家用車が最も多い43%で, さらには駐車スペースが限定されている旨の記述を入れておいたがそれでも車が圧倒的多数で, 第2位・30%の自転車・バイクとの間に約13% (50名)の差がみられた。自家用車との回答者中, 学内駐車は117名 (75%) にのぼった。コンサート終了

は午後8時30分~9時近くであったため, 車は主要な移動手段であり, 学内の駐車スペースが有効活用された事実が読み取れる。

愛大との関係では, 学外者合計が約71%にのぼり, 愛大生13%と愛大教職員15%の合計割合である28%を上回った。この点で地域の人々を学内に呼び込み, 交流をはかるという目的は数値的には一応達せられたと言える。ただ, この数値を支えるチケット売上については, 外部プレイガイドが約3分の1弱であり, 残り3分の2は出演者・企画者がつてをたよって営業・販売活動を行った結果であり, 親戚縁者等も多数おられたもようである。アンケート項目にはなかったが, 社会人の中には愛大卒業生も数多く見られた。筆者も教育学部音楽科同窓会に潜入してプロムナード・コンサートのチラシを配ったところ, その場で多くのチケット購入者を得ることができた。卒業生が大学を支えてくれていることを実感した次第であり, あらためて感謝したい。(しかし回を重ねるとこのような販売方法の見直しも必要になるが。)

5のコンサート情報についても, 知人・出演者から58%が新聞・ミニコミで31%をはるかに上回っているのは, 上の事情の反映と推察される。大学HPからも6%あった。

6の感想から, コンサートは毎回好評であったと言えるが, 入場者がもともとコンサートひいては愛媛大学に対して非常に好意的であったことも考慮すべきである。スタッフの対応等についてはクレームと助言があり, いずれも善意にあふれ, 貴重な示唆に富むものであった。有料の催しであるからには, スタッフ教育へのきめこまかな配慮が必要であったと痛感した。最も厳しかったのは会場についての評価であり, それも第1・第2回共通教育大講義室に集中した。原因は外部からの騒音で, 初回は隣の学校の校庭でのまつり太鼓の練習, 第2回は学内部活の楽器練習であった。事前に騒音チェックをした時点では許容範囲内の生活環境音のみで, それ以外特に問題はないように思われ, また, 同会場で同時時間帯に2度演奏した筆者の体験からも騒音対策の必要は感じられず, 潜在する問題を見落としてしまった。企画責任者として深く反省しており, 今も申し訳ない気持ち

である。第3回から場所を移したメディアホールは作品発表とお能には好評であった。しかしジャズでは否定的評価が11%あり、これは①ホールがデッドであり、②音響機器のパワー不足（音楽教室のクラシック用を運搬して使用）、③ミもフタもない照明によると思われる。

8の初来場者は、クラシック系第2・3回が52・29%が回を追う毎に低くなったのに対して、お能与ジャズがそれぞれ70%超と突出しており、ジャンル間の壁が感じられた。

9の台風のため第3回コンサートが延期されたことについて第3回開催日に質問したところ、71%の人が延期を事前に知っていた、と回答した。当日は全学的に授業も第2限から休講であった。ただ万一の来場者のために開催時刻に会場前に待機していたところ、2名の外部からの来場者があり、お詫びに作曲家オリジナルの小曲の楽譜をプレゼントして延期の事情説明を行い、了解を得た。

7の愛媛大学でコンサートや芸能関係の催しを行うことについては、310名87%の賛成があり、大いに励まされた。10ではこれについて、意義を認めたものから種々の助言・要望に至るまで多様な自由記述があり、また、11では今後の芸能音楽関係の公演・企画への希望等について多くの参加者が自由記述を認めてくれた。貴重な生の声として感謝とともにすべて転載した。ただ、同じ意見はカッコ内の数であらわし、内容別におおまかにまとめて記した。

10. 愛媛大学内でコンサートや芸能関係の公演を行うことについて（自由記述）

開かれた大学、大学への親しみ感

- * 大学と学外の垣根がなくなって開かれた大学の印象が強くなります。すばらしいことです。
- * 開かれた大学に期待したい。
- * 皆が利用出来るコンサートが開かれた感じで、好ましく思う。
- * 愛大に親しみができてよい。
- * 身近に感じ、よいと思う。
- * 参加しやすい。気軽に寄れるから。
- * 気軽さが良いと思う。但し、会場の整備や段取りをもっと勉強してほしい。

- * 大学という身近な施設で芸術に触れる機会を得られることは大変ありがたいから。
- * 学外の者からは入りづらい大学が身近なものになり、又、学内でどのような先生がどのような文化活動に関わっていらっしゃるかわかるので。
- * 大学の設備も有効に使えるし、良いと思う。
- * 愛大の施設を活用できるいいチャンスだから。
- * 大学の中を見ることが出来て楽しい。
- * 学内に車でスムーズに入れるようになっており、進歩だと。このような催しを学内で行って市民が出入りしやすい大学にして頂きたい。
- * 40年ぶりに校内に入り若い時を思い出しました。学内で公演などいいことですね！
- * せっかくそのような学科があるのだから、学内の活性化のためにも、学校の文化水準の向上のためにも行うべきである。
- * 大学の華であり、文化（地域）を担う大学として、今後重要であると思う。
- * 行政・経済・産業界に対し批判的な視点が学問の場では求められるべき。教授の方々も本来の研究に没頭して頂きたい。

文化的拠点としての大学への期待

- * 学内の人材を社会に還元するのはよい。
- * 愛媛大の文化のパワーを全開に！
- * 大学は地域の文化（音楽など）の中心であってほしい。
- * 大学が文化、芸能の発信基地として、地域に存在感を示すべきです。
- * 今回のように教師と学生のつながり一成果を外へ発信することは有意義であり、この大学の“特性／宝もの”と思います。（あたたかさがありました。）
- * どんどんやって欲しいですね！！来る機会があんまりないですから！
- * 楽しませてもらいました。ぜひまた企画してもらいたいです。
- * 音楽も教養であり、人間として絶対必要だから。
- * クラシックをしてください！
- * 広義の文化活動の中心としての機能をもっと広げるべき。
- * 社会教育には芸術が大切。
- * 心のつながりができるから。充実の内容でした。

- *生でコンサートや公演を聴いたり観たりする機会があるのは素晴らしいと思う。
- *コンサートをより身近に感じられた。
- *又このような公演をお願い致します。とても感動しました。
- *どんどんやって下さい。
- *判りやすく良い。
- *リラックスした雰囲気で見学できる。
- *気軽に、身近に多分野の音楽に触れられる。鑑賞できる。
- *安い費用で一流の音楽が聞ける幸せを感じます。
- *解説を伴う小品の演奏は大変結構と思います。
- *音楽・芸能などの文化を特長化することなく、様々な環境の中で演じ、視聴することがよいと考えるから。地域創成の要は、若者たちの感性は豊かさをいかに汲み出すかにあると思います。愛媛大学生が会場にあふれる時が来るまで、続けてほしい。
- *本日の会場、装束の仕度は有意義でした。
- *もっと多くの愛大学生さんにJAZZを聴いてもらいたいです!! JAZZはええぞな!!

地域との交流・地域への発信と貢献

- *地域とより近くなるためにとってもいい企画だと思います。会場はやはり全学の協力こそそのものだと思いますので今後ご検討されるとよいのではと思います。
- *大学というものが地域の人々に広く理解してもらえるのでは。
- *大学は広く県民に公開され、支持を受けるとよいから。
- *地域との交流が持てるから。
- *大学が一般社会に開放され、地域とより密接になることを願っています。
- *大学の存在を地域にアピールすることになる。
- *市民に開かれた大学となる一つである。
- *研究成果を地元還元するのは、これからの地方大学に課せられた義務
- *設備や人材をとおして地域に貢献されるので大変よいと思います。
- *地域大学の文化水準の向上、相互交流による地域活性化。
- *大いに地域に開放してほしい。大学に呼び込む

- ことが活性化になる。愛大をもっと市民の身近なものにした方がいい。松大の公開講座に参加しているが愛大もおおいにやってもらいたい。
- *地域と関わるのに「大学まで来てください」よりは、企画側が地域に出て行けばよいのに…と思う。
- *地域に開かれた、研究の成果を世に問うことは地方大学に課せられた使命だと思います。
- *地域にひらかれた学校ということでおおいに賛成です。
- *地域に大学をアピールできるため、気軽に良い演奏に親しむことができる。愛大職員は無料にしてはどうか?
- *学内外の交流促進の一助となる。学生に文化の一端を。
- *愛媛の文化を支持できると思う。
- *人材を埋もれたままにしてはもったいないと思うから。
- *普段立ち入る機会のない大学に来ることで、子供たちも大学に興味を持ってくると思う。(2人)

*これからも企画をお願いします。

会場、音響

- *会場設備をもう少しだけ整えてほしいです。
- *会場の整備、施設の充実が必要と思われる。(特に有料となると…)
- *会場が教室のため椅子の配列が縦に直線のため前列と重なり少し見えにくかった。
- *空調がうるさい。空間がありすぎる。机のスペース飲み屋の雰囲気がよいかも。
- *サークルの音(?) 外部の音が残念でした。時間制限で、少しとまっていたら嬉しいのですが…。
- *近いから有難いけど音の響きは?
- *音が良くない。音響設備の整った所でしてほしい。
- *防音設備の整ったホールで聴きたい。
- *学内にちゃんとしたホールがあればよいと思う。(最近は大学にもあると思うが)
- *音楽関係は音響設備の整ったところでないと演奏者はきのどく。学生の参加をもっと多くほしい。

- * 会場の良否が左右すると思いますので、いい会場だと思います。心豊かな時間を有難うございました。楽しかったです。
- * 欲を言えば、能舞台で見たかった。(2人)
- * 勝手の違う聴衆でやりにくかったかと思いますが、手抜きなくやってくれて感銘しました。
- * 大学が開かれた感じでよいと思うが、コンサートは舞台に気をつけてほしい(照明類)。
- * 会場内のスタッフがフード付きの上着を着ているのは違和感が。
- * あいさつ…とかは、なるべく短くしてほしい。
- * 演奏内容と会場の雰囲気がいまひとつである。
- * 前席の二人連れがずっとガムをかみっぱなしで、これが視覚的にうるさかった。
- * 場所がわかりにくい。
- * もっとPRするとお客様も増えるのではないのでしょうか。

11. 今回の感想・今後のコンサートや公演の企画への意見・希望

全体的感想・要望

- * 大変すばらしいコンサートでした。企画も興味深く、ぜひ次回も来たいです。
- * 機会があれば、今後も参加したい。
- * 毎年お願いします。
- * 期待を遥に上回る充実した内容で楽しませていただきました。
- * 音楽を身近に感じられるので、とても良いと思います。これからも是非お願いします。
- * 面白かった。
- * 大学に親しみが湧いてよいと思う。続けてください。
- * とてもいい企画で勉強になりました。ぜひ今後もプロムナードコンサートを続けてほしいと思います。
- * ジャンルにこだわらないで、かつ若干通常のコンサートとは一味違うものを。
- * レクチャーコンサートをして欲しい。
- * 回を重ねて、細部の充実を感じます。各方面の協力、コラボレーションで更に特徴的なものになりうると思います。(可能性大)
- * クラシック、ポップス、ロック、ジャズのジャンルを問わず、色々なコンサートを是非公演して欲しいです。松山市出身の芸能人のコンサート、公演を行って欲しい。
- * 1時間弱のミニコンサート形式でよいと思います。曜日、時間を決めてのリレーコンサートはいかがでしょうか。
- * 今後とも、幅広く出演をつのって続けて欲しい。
- * 非常に広いジャンルにまたがっており、片寄らない企画、県立美術館の企画展とタイアップした企画、この路線で行って下さい。
- * 定期コンサートを実施してほしい。(月1回ほど)。楽器の運搬が大変な場合は(ピアノ、チェンバロ)会場はその部屋にしてもよいと思います。
- * バラエティーに富んだ催し物を企画して欲しい。
- * 音楽だけでなくダンスや様々なジャンルのコンサートを期待しています!!

会場運営・スタッフ

- * 前は太鼓の音、今回は管楽器の音が大変気になりました。せめて、コンサートの時間内、学内のご協力を頂くことは出来ないのでしょうか。大学のオケの練習に関しては、残念である。センターの対応を考えるべきだ。外の音が気になってコンサートの音に集中出来なかった。コンサート開催中はせめて練習をとりやめて欲しい。チェンバロの緩徐楽章で若干外の音が気になりました。愛大響の管楽器練習の音と、平和共存出来るようお祈りいたします。 など(17人)
- * 周りが静かな所で演奏会をした方がよいと思う。
- * もう少しいい会場を。
- * 今回からの会場変更は、大正解と思います。今後も条件が許す限りで行って下さい。
- * 留学生は、無料で招待してはどうでしょう。
- * 職員の福利厚生に活用されては如何でしょうか。
- * 無料がありがたいです。
- * 目障りなもの(譜めくりの椅子の上着。司会者の立ったままの位置。特に会場を見回す動きは大変邪魔です。座ってください。)
- * しまりなくだらけるので、開始を時間厳守でお願いします。
- * 無口でアンケートを渡さないでください。
- * 施設面でのハードルが高い。また、机の棚にゴ

ミなども一部あり、スケジュールに合わせた清掃のローテーションなど考えて欲しい。

- * コンサート場を建設する必要があります。
- * 数多くの公演をしてほしい。大学内の音楽ホールがあればそこで公演してほしい。
- * 芝居やダンス、アンサンブルといっても、舞台が大講やメディアセンターでは小さい。やはり記念講堂をリニューアルして、小劇場になればと考えてしまう。
- * 会場の案内を大学内でもして欲しい。
- * 会場の前または近くに案内などを出しておいてはどうでしょうか。愛大には初めて来たのですが、場所や会場入り口が分かり難かったです。(2人)

- * 会場が変更されたのがよく分からなく、学内を歩き回りました。守衛さんへの伝達もなされておらず、この点は大変不満です。校内の案内表示も不足です。受付で一言お客様にことわりを入れるとずいぶん感じが変わると思います。会場を探して、ウロウロしている人が多かったです。
- * 学生、若い方がもっと参加できればよいと思う。学割を作るなど、学内、外で活動されている方々を。
- * アンケートいつも同じ形式ですが特に③のspaceを広くしては？

内容・希望

- * 私自身の希望としては、クラシック音楽を希望する。
- * 歌曲のコンサートも行ってくださいれば、有難く思います。歌(合唱にあらず)が聴きたい。(2人)
- * チェンバロを初めて聴く方も多数いらしたので、楽器の紹介もしてくださるとうれしいです。
- * 各楽器の音色を個別に聴きたい。
- * 聴き比べのポイントをもう少し説明してほしい。演奏は大変面白く聴かせて頂きました。
- * 聴き比べが面白かった。今のヴァイオリンの音の方がきつい音がし、チェンバロが負けているように思った。バロックヴァイオリンの方が合っていた。アンケートの項目の中に、今回のコンサートの感想を書く欄があれば、と思う。

* チェンバロなんてこんなに間近で聴くことがないで、感激でした。大きなコンサートホールよりも、今回のような肩のはらないコンサートを待っています。バロックヴァイオリンというものがあるのも初めて知りました。やはり、チェンバロとバロックヴァイオリンは相性が良いと思いました。

* モダンとバロックのヴァイオリンを聴き比べたり、間近で見ることができて、とても良い経験になりました。ヴァイオリンもチェンバロもきれいな音でした。

* 毎回楽しみに聴かせて頂いています。不思議な音色を聴かせて頂き、ありがとうございます。

* 優しい音色のバッハを楽しませていただきました。様々な先生方の演奏を聴いてみたいと感じています。

* 弦楽器のコンサート(デュオ、室内楽)を希望します。バロックの音楽には関心が強く、よく聴く機会が欲しいので、このような企画はとてもうれしい。チェンバロを近くで聴けるのも貴重です。

* ヴァイオリンの音色が良かった。

* 小規模、気軽、良質な音楽会を望む。先日のピアノのバッハなどとても面白く、八幡浜のバロック絵画を観に行くはずみとなった。

* 愛媛大学の吹奏楽の演奏が聴きたい。

* 愛大教育学部の先生の公演や、クラシックに限らず県内で活躍されている方々の公演があればまた聴きに来たいです。

* クラシックをして下さい。

* バロック管弦楽曲の企画をして欲しい。

* バロック室内楽をたっぷり聴かせて欲しい。

* 能に関する説明がありよく分かった。説明も面白く楽しかった。(2人)

* また是非能をしていただきたい。

* この催しにJAZZを入れられたことは驚天動地とも言えるものではなからうが面白い企画といえる。大いにやってもらいたい。

* またJAZZを企画してください。とても楽しかった。

* 今後もジャズの企画を!! (3)

* またジャズを聴きたい!!

- * たいへん良い企画でした（ジャズの回）
- * 老若男女が気軽にJAZZを聴ける企画をお願いします。お気軽料金で聴ければ尚更いいで～す！！ヨロピク～っ！！
- * ○「軽音楽」の公演、○「佐高 信」の講演、○「辛淑む」の講演会、○他の「JAZZ」グループの公演、○「笑点」出演の落語家（他の人でも）・落語以外の「漫才」とかででもいいからともかく「笑える」企画もいいと思う。
- * 熱演と熱気でノドが渇きました。有難う。
- * 有名・知名度の高いところでしてほしい。
- * 有名どころも少しおりまぜていただけたらビギナーにも楽しめると思いました。もう一度ピアノを習いたくなりました。ドラムもやりたい。弾き語りがよかったです!!! おいしいごはんとおいしい酒を口にしたいくなりました。
- * ドラムスかっこよすぎです。とてもよかった。
- * 千之さんステキでした。高橋さんお疲れ様でした。
- * 能とJAZZはまたやってほしい。
- * フォルクローレなどの民族音楽のコンサートを開いていただきたいです。あと声楽も聞きたいです。

コンサートの来場者は会場では儀礼上の沈黙を守っているものの、顔を隠した物言わぬ聴衆ではない。沈黙の下に個人としての豊かな反応と見解を具えた人々であることがアンケートの多彩な自由記述から読み取れる。シンポジウムのような会場内での言葉のやり取りこそ行われないが、音楽もまたコミュニケーションであり、演奏者と聴き手の双方向性の上に成立している。更にそれを支える音楽文化への共有された理解や思いもある。ここでは自由記述にコメントするよりも、生の声なるべくそのままの形で記録することが肝要と判断し、紙面をいただいた。最後に一点、地域創成研究センターの重要な役割である地域との相互交流に、ささやかな試みを通してではあったが音楽や芸能もまたおおいに有効な方法であることが、来場者の声からも確認されたと言えるだろう。

付記 プロムナード・コンサート 2004年

第1回 「光と色彩の音楽——印象派展に寄せて」

大澤 宣晃 (9/21)

第2回 「バロック音楽——ヴァイオリンとチェンバロによる」三上 徹・岸 啓子 (10/6)

第3回 「音楽が生まれるとき」横山詔八氏の作品演奏 (11/5)

第4回 「能に接近」宇高通成（重要無形文化財能楽保持者）ほか (10/27)

第5回 「JAZZで行こう！」栗田敬子ほか (11/17)



会場外観



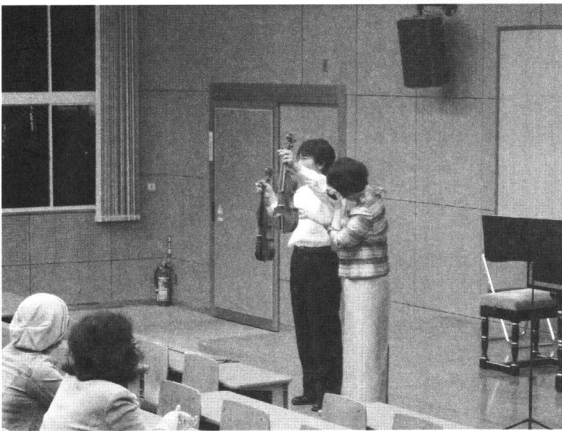
第1回



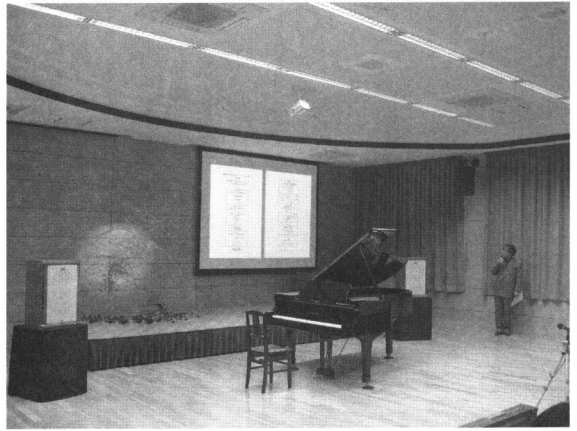
第1回



第2回



第2回



第3回



第 3 回



第 4 回



第 4 回



第 4 回



第 5 回



第 5 回